



「北白川だより」 学校アンケート 臨時号

令和7年9月18日
京都市立北白川小学校
校長 原田 玲子

令和7年度 学校教育目標 『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、7月の学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。学校アンケートは児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群「よくできている」とB群「だいたいできている」を合わせて『できている』、C群「あまりできていない」とD群「できていない」を合わせて『できていない』と大きく2つに分けて分析しています。

[学習面]

		A	B	C	D
児童	① まいにちのがくしゅうのめあてがたっせいできている。	50.7%	41.9%	6.0%	1.4%
	② せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	61.0%	34.5%	4.0%	0.6%
	③ じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをいつたりかいりしている。	47.6%	35.3%	14.2%	2.8%
	④ よんだり、かいり、けいさんしたりするちからがみについている。	57.5%	33.3%	6.8%	2.3%
	⑤ いえでじぶんからしゅくだいがくしゅうをしている。	60.1%	27.6%	7.1%	5.1%
	⑥ すすんでどくしよをしている。	52.1%	33.3%	10.8%	3.7%
	⑦ すすんでうんどうをしている。	58.4%	23.9%	13.7%	4.0%
保護者	① 我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	53.1%	43.7%	3.1%	0.0%
	② 我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができる。	41.3%	52.0%	6.7%	0.0%
	③ 我が子は、進んで自分の考えを話すことができる。	39.8%	47.6%	12.2%	0.4%
	④ 我が子は、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付いている。	54.3%	39.0%	6.3%	0.4%
	⑤ 我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができる。	40.6%	38.2%	18.9%	2.4%
	⑥ 我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	49.2%	33.1%	16.5%	1.2%
	⑦ 我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	46.5%	35.4%	14.2%	3.9%
教職員	① 確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
	② 友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣がつくように取り組んでいる。	62.5%	33.3%	4.2%	0.0%
	③ 授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	56.5%	43.5%	0.0%	0.0%
	④ 基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
	⑤ 家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	39.1%	60.9%	0.0%	0.0%
	⑥ 読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	43.5%	47.8%	8.7%	0.0%
	⑦ 進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	52.2%	39.1%	8.7%	0.0%

※回答した教職員の中には、担任以外（学級を担当していない・児童と直接接する機会が少ない）もいることをお知らせください。

【②「せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。」の項目より】

昨年度前期と比較して、約 92%から約 96%に上がりました。たしかに、話を聞いている児童は多いように感じます。「聞く」ことも「考える」ことも実は、いろいろな能力を使うために難しいのですが、これまでの学級経営や授業の工夫が功を奏しているようです。

以前、学校アンケートをとったときに、ご家庭で話を聞く時間を意識的に確保しているという記述がありました。そのようにコミュニケーションをとっていただくことは、成長を促すことに繋がります。「はい」「いいえ」で答えられる質問だけではなく、「今日、国語はどんな勉強したの?」とか、「宿題、何時からする?」など、文章や自分で考えて答えるような聞き方をすることで、考えて話す力等を育むこともできると思います。

情報過多の現代、自分が好きな情報や自分と同じ考えの情報のみを選択的に切り取りやすくなっています。そのため、周りの話を聞いて考えているようで、実は「～すべき」と一方向に偏ってしまうことがあります。全国的なアンケートでは、6年生のおよそ4人に1人が「自分と違う意見について考えることが楽しいとは思わない」という回答でした。自分の知識や判断、能力に対して実際以上に自信をもってしまう心理的傾向を過信効果と言うようですが、私たち大人も子どもも、もしかして聞いているつもり、知っているつもりかもしれません。ですから、まず複数のコミュニティやさまざまな立場の情報源から情報を得たり、自分の五感(体験)で感じたりして「知る」ことが大切だと考えます。

【⑦「すすんでうんどうをしている。」の項目より】

児童の『できている』は約 82%で、昨年度前期と比べ、4%程度の低下が見られました。学校での運動というと、運動場に限られるところがあり、外に出るように声をかけたかったのですが、今年度の暑さから考えると、運動を強く勧めることが難しい状況も多くありました。担任ではないためにそもそも声をかける機会が少ない人も含め、10%弱が「できていない」と回答しています。

学年別で見ると、1年生の2割弱、6年の3割弱が運動できていないと回答していました。1年生は、まだまだ遊びの種類が少なかったり制約があったりするため、外に遊びに行きにくいことが考えられます。また、6年生にもなると、外に行きたがらない子や、外遊び以外の過ごし方をする子もいるようです。

ただ、運動と学習の関係については、近年、研究が進められていて、適度な運動が質の高い学習に繋がっているという話を耳にします。例えば、運動することで、脳の血流が良くなって、記憶や集中力が高まるとのことです、脳の機能向上が期待できます。また、間接的にも、ストレスホルモン(コルチゾール)の分泌を抑えて気分を安定させることや、睡眠の質を高めて記憶の定着や脳の回復に役立つこと等が言われています。

家の中でも簡単な運動はでき、また朝・夕の気温が高くない時間帯を選べば、外にも出ることができます。

是非、工夫していただき、適度な運動、バランスの良い食事、十分な休息(睡眠)の良いサイクルで、学習も生活習慣も充実した日々を過ごしてほしいと思います。

※保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

[生活面]

		A	B	C	D
児童	① じぶんからすすんであいさつをしている。	63.0%	28.8%	6.6%	1.7%
	② いえやがっこうのルールをまもっている。	59.0%	35.0%	5.1%	0.9%
	③ そうじやかたづけをじぶんでしている。	50.4%	34.8%	12.3%	2.6%
	④ せんせいやかぞくとふだんからはなしている。	70.9%	22.5%	6.0%	0.6%
	⑤ あいてをきずつけないことばづかいではなしている。	49.6%	40.5%	6.6%	3.4%
	⑥ にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	45.9%	39.6%	10.5%	4.0%
	⑦ じぶんにはがなばっていることがある。	78.3%	16.5%	3.4%	1.7%
保護者	① 進んで挨拶するように声かけをしている。	57.9%	37.0%	4.7%	0.4%
	② 家や学校のルールを守るように働きかけている。	60.6%	37.4%	2.0%	0.0%
	③ 掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	22.0%	55.1%	19.3%	3.5%
	④ 子どもの話をしっかり聴くようにしている。	42.9%	55.1%	2.0%	0.0%
	⑤ 言葉づかいに気をつけて話すようにしている。	40.9%	51.6%	7.1%	0.4%
	⑥ 苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	46.5%	48.8%	4.3%	0.4%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	69.3%	29.9%	0.8%	0.0%
教職員	① 自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%
	② 家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	75.9%	24.1%	0.0%	0.0%
	③ 自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%
	④ 子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	80.0%	16.7%	3.3%	0.0%
	⑤ 言葉づかいについて指導するとともに、自らも意識している。	60.0%	36.7%	3.3%	0.0%
	⑥ 子ども達が苦手なことにも前向きに取り組めるように、意識して実践している。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	⑧ 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	86.2%	13.8%	0.0%	0.0%

【③「そうじやかたづけをじぶんでしている。」の項目より】

昨年度前期と比較して、『できている』が 6%程度低下して、約 85%という結果でした。本項目については、保護者の回答でも 77%と高くはありませんでした。そうじやかたづけについては、いつから自分でするか、誰がどこまでするか各ご家庭で違うところではありますが、学校では、自分の身の回りのことはなるべく自分でするようにしています。ご家庭でも、自分の持ち物の準備や後片付け等の管理、また公共物の扱い等、引き続き声かけをよろしくお願いいたします。

少なくとも、学校は公の場であり、教室(机・椅子)もトイレもきれいに使うようにしていきたいと考えています。しかし、子どもたちは机・椅子や端末など、自分の物だと勘違いして雑に扱う様子も見られます。もし、そういうところを感じられましたら、お子さまに声をかけていただけるとありがたいです。

【⑦「じぶんにはがなばっていることがある。」の項目より】

昨年度も高かったですが、今年度も「できている」が約 95%と高い回答でした。学校でもご家庭でも、頑張りを褒めていることが伺えるので、子どもたちも頑張りがやすい環境にあるのではないかと考えられます。

一方で、苦手なことには取り組めていないという子どもが約 15%いることから考えると、上手いかなかったときの受け止めや、モチベーションの維持など、まだまだ周りの大人が支えていくところがあるのではないかと考えます。頑張ったからといって、必ずすぐに報われるわけではありませんが、報われている人は必ずどこかでごんばっているはずですので、お子さまへの声かけを引き続き、よろしくお願いいたします。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「社会一般はもちろん、学校においてもデジタル化は進んでいます。お子さまのデジタルとアナログの利用について、それぞれの良さを感じる場面はどんなときですか。」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。まとめたかたちになりますが、紹介させていただきます。

【デジタルの良さ】

- ・調べたいことをすぐに検索できる
- ・映像や音声で視覚的に理解しやすい
- ・宿題の進捗が一目でわかる
- ・学習履歴が残り、振り返りがしやすい
- ・作文や報告書の修正が簡単で意欲が高まる
- ・興味を引きやすく、学びを広げるきっかけになる
- ・遠隔地の人ともつながれる
- ・タイピングやICTスキルが自然に身につく
- ・他者の作品や意見を一覧できる
- ・実験動画などを簡単に見られる
- ・時間や場所を問わず学習できる
- ・情報量が多く、効率的に学べる
- ・即時反応があり、やる気が持続しやすい
- ・保存や複写がしやすく、管理が簡単
- ・保護者との連絡手段としても便利
- ・大人がいない時でも個別最適化での学習がしやすい
- ・社会で必要なデジタルリテラシーを育む
- ・作業効率が高く、時短につながる
- ・自分で学びを広げられる
- ・スピーディーに情報を取得・処理できる

【アナログの良さ】

- ・漢字の書き取りや読書で学習の定着が高まる
- ・手を動かすことで集中力や想像力が育まれる
- ・五感を使った体験ができる（触れる・匂うなど）
- ・達成感が得られやすく、学習意欲につながる
- ・白か黒かはもちろん、グレー領域も学べる
- ・雑多な情報を拾いながら思考を深められる
- ・書いたものが形として残り、学習の成果が目に見えやすく、振り返りやすい
- ・人との会話や交流が生まれやすい
- ・自分のペースで進められる
- ・アナログならではの温かみや不便さ、個性
- ・書くことで筆圧や握力がつき、脳に刺激が伝わる
- ・実際に手を動かすことで記憶に残りやすい
- ・図工などの作業で技術が身につく
- ・辞書を引くことで関連知識が広がる
- ・エラーやノイズを含めた感覚を味わえる
- ・自分の言葉で表現する力が育つ
- ・読み書きの基本的な力が身につく
- ・丁寧に物事を進める姿勢が育ち、気持ちがこもる
- ・自然や実物に触れることで深い学びにつながる

【両方にまたがる意見】

- ・どちらが良いというより、両方の良さをうまく活用してほしい
- ・場面に応じて使い分けることが大切
- ・アナログで基礎を身につけ、デジタルで広げるのが理想

いろいろ貴重なご意見を出していただき、ありがとうございました。読ませていただき、デジタルが導入されることに対するマイナスのご意見もありましたが、学校でも、全てにおいてデジタルが良いと思っているわけではありません。デジタルはデジタルの良さがあり、アナログはアナログの良さがあるので、成長段階に合わせて上手に付き合うことが大切です。そして、これが統一されることはなく、アナログとデジタルの選択肢があることが今の世の中です。その感覚やバランス、使い方が、各家庭や個人によって違うために、いろいろな思いがあるのだと思います。

今回、私たちが気づかないそれぞれの良さがあるかもしれないと、ご意見をいただきましたが、同じ事実にも捉え方が違うことも勉強になりました。例えば、効率が良く最短でいけるデジタルに良さを感じる場合もあり、また一方で、効率が悪く不便さがあるからこそアナログの良さを感じたり成長したりする場合があるとのことで、確かにどちらも大切です。情報過多で切り取りが多い現在、アナログでもデジタルでも、本質を見抜いて情報を上手に扱えるように、学校でも考えていきたいと思っています。